

よなか ふしぎ わ  
世の中には不思議で分かりづら  
いことがたくさんあります。自然、  
かがく れきし くわ せんせい と  
科学、歴史など、詳しい先生に解き  
あ  
明かしてもらいましょう。

# 知りたい好奇心



©原仲たか / ポプラ社

# 男性中心のモノづくりに 求められる女性の視点

私たちは毎日たくさんのモノを使って、とても便利に生活しています。例えば、朝は洗面所でドライヤーを使って髪を整えたり、電動歯ブラシを使って歯を磨いたりする人もいるかもしれません。台所では電気炊飯器でご飯ができ、家の外を動くのには自動車が使われています。携帯電話は、大人なら誰でも持っているようになりました。

## 大勢の力が必要

ところで、これらのモノを作るには大勢の人の力が必要です。まず、こんな製品が便利だというアイデアを出す人、製品をデザインする人、機械部品を集めて使えるモノに仕上げる人、大量生産するためにそのモノを作る機械

を作る人も必要でしょう。さらには、できた商品をテストして不具合がないか調べる人や、その売り方を考える人もいます。そして今、このようなモノづくりの世界で、女性の技術者がとても求められるようになってきました。

製品を使うのは男性だけではないのに、男性だけの集団でモノづくりをしていくと、女性が使ったことに十分な気配りができません。せっかく作り上げた製品に問題が出てしまうのです。例えば、車のシートベルトは男性が使ったことを前提にして作られているため、交通事故の時に女性や妊婦が重いけがをする率が高いことが指摘されています(ジェンダーサミット10実施企画書 <https://www.jst.go.jp/diversity/gs/pdf/planning201607.pdf#60>)。

## 理系女子と交流

ところが、モノづくりがよくわかる女性技術者が、日本は極端に少ないのです。国立研究開発法人の科学技術機構(JST)は、20年以上前から女子学生に理系に進んでもらおうと、さまざまな取り組みを続けています。今、日本は、女性が活躍することを政府が後押しする時代になりました。女性だからという理由だけで将来の進路を狭める必要はありませんし、数学が苦手でも機械いじりや生き物が好きなら理系に向いています。女子学生のみなさん、理系に進むことを考えてみませんか。

甲府市朝気にある県男女共同参画推進センター(びゅあ総合)で3月18日午後1時半~3時半、「サイエンスガールの未来を語ろう12017」が開かれます。山梨大学の教員や理系女子学生と交流でき、中高生のほか小学生でも参加できます。理系進学に興味のある方、びゅあ総合まで問い合わせてください。

(山梨大学大学院国際流域環境センター)教授・山梨大学男女共同参画推進室長 風間ふたば

JSTのダイバーシティ推進室のホームページ(<https://www.jst.go.jp/diversity/rolemodel/index.html>)。やまやまな分野で活躍している女性を紹介されていて、将来の職業を考えるの参考になります。